

【サマリー／スクリーンに映したもの】

★木曾川水系連絡導水路は「徳山ダムができちゃったから」導水路？

3500 億円の徳山ダムの水を使わないとモッタイナイから、さらに 890 億円をかける?? **いや 2270 億円になる!!**

行政に求められている合理性のかけらも見えない。

★ 目的(2)「水道用水及び工業用水の供給」。

・徳山ダム事業に、利水者として参画した愛知県・名古屋市が「木曾川において取水を可能とするものとする」が本来の第一の目的。

・2004年の第4次木曾川フルプランは破綻。

徳山ダム新規開発水が、今もって一滴も使われていないのは、「**要らない**」から。

・不要な導水路建設への投資は、住民の肩に重くのしかかってくる。

・平成6年渇水ときの19時間断水は、農業用水の権利者との話し合いで、解消された。

・「想定外の万一へ備え」をハード対応でカバーすることは不可能。

★ 目的(1) 流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）。

・「木曾成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保する」

木曾成戸地点で 40 m³/秒の流量を確保すべき科学的根拠はない。

平成6年渇水で「深刻な環境被害を窺わせる資料は存在していない」（一六六国会質問主意書答弁書）

・「長良川の魚類の産卵に水深 30cm となる流量を確保する」にも科学的根拠はない。

・河川環境保全どころか環境破壊になってしまうのではないか。

★ 導水路事業の**目的(1) (2)ともに不合理。導水路は不要。**

不合理で不要なものの代替案を検討するのは、無意味、ナンセンス。

★ 「検討の場」が設置された 2010 年に、愛知(名古屋)で

生物多様性条約 COP10 が開催され、20 の愛知目標が採択された。

愛知目標 3 と真剣に向き合えば、”遅くとも 2020 年までに” 導水路事業の可否が、極めて厳しく検討されなければならなかったはず。

しかし、この「検討報告書(素案)」には、**愛知目標**も、**生物多様性国家戦略**も、真面目に検討された形跡がない。 国際的な公約であり、国家戦略なのに!。

★ リニア新幹線の工事で近辺の地下水位の低下の事例。

地下の長いトンネルを通過してダムの水を引くことへの弊害、環境への悪影響の懸念は深まるばかり。

効用、言ってみれば「**御利益**」はなく、**不安と懸念ばかり**の導水路事業、それも**事業費が 2.55 倍**にもなった・・・この事業は**継続すべきではなく、中止とするしかない**。

【本文／口頭で述べたもの】

大垣に住む近藤ゆり子と申します。

1995年に建設省が徳山ダム建設事業審議委員会を設置して以来、ほぼ30年にわたって、徳山ダムと関連事業を注視してきました。いろいろな委員会などの傍聴に足を運びました。行政間の覚え書きや非公開の会議資料なども、ときに妨害に遭いながらも、情報公開請求手続きを重ねて入手しました。さらに国会議員を通じての質問主意書などで情報の確認をしてきました。この事業に関して、詳しいほうの一人だと自負しています。

木曾川水系連絡導水路は、徳山ダムの水を木曾川に導水するものです。

2009年、私たちが、愛知県に「愛知県には徳山ダムの水は不要だ、だから導水路も要らない」と言いに行ったとき、担当者の返事は「徳山ダムができちゃったから」というものでした。導水路の必要性を、データと論理をもって説明するのではなく、徳山ダムができちゃったからその水を使えるようにするしかない、というのです。つまり、木曾川水系連絡導水路は「徳山ダムができちゃった導水路」なのです。

それから15年、導水路が必要だという切迫した話はどこからも聞かれません。要らないのです。

2008年の事業実施計画では、事業費は890億円でした。3500億円の徳山ダムを使わないとモッタイナイからさらに890億円をかける、というのは、悪い意味でのお役人の思考法、即ち「自分の懐が痛むわけではないから」なのだと思えません。そして今、事業費は2.55倍の2270億円に膨れ上がったそうです。3500億円の徳山ダムがモッタイナイから2270億円をかけて、ダムの水の一部を使えるようにする・・・ひとと言って馬鹿な話です、本来、行政に求められている合理性のかけらも見えません。

徳山ダムは、水資源開発促進法に基づく「水資源（都市用水）開発」のダムです。ここから水を引く木曾川水系連絡導水路（徳山ダム導水路）も、水資源開発促進法に位置づけられた事業で、利水者として参画した愛知県・名古屋市の取水を可能にすること、つまり、目的(2)「水道用水及び工業用水の供給」が本来の第一の目的です。

名古屋市でも愛知県でも水需要は減少してきています。節水機器が普及して、給水人口が若干増えても、給水量は増えません。今後、人口は減少します。水需要は減るばかりなのは明らかです。

2004年の第4次木曾川フルプランは、とっくに破綻しています。第4次フルプランで要るとされた徳山ダムの水が、今もって一滴も使われていないのは、要らないからです。要らない施設にお金を投じてはいけません。不要な施設建設にお金を注げば、水道料金を上げざるをえません。公営企業会計は、独立採算が原則だからです。実際には、地方財政法6条を逸脱して税金を投入するようなことも、よく行われてきました。いずれにしても、要らない施設への投資の負担は、住民の肩に重くのしかかってきます。

2009年当時、名古屋市の担当で「200年に一度の異常渇水が起きたらどうするんだ！想定外の万一に備えて徳山ダムの水が使えるようにするのだ！」と叫んだ人もいました。しかし、平成6年渇水の後の住民アンケートでも、住民は「異常渇水時でもジャブジャブと水を使う」ことなど望んではないことが示されています。そして平成6年渇水の際の19時間断水は、農業用水の権利者との話し合いで、解消されました。

「想定外の万一への備え」をハード対応でカバーすることは不可能です。異常渇水の際に少な

い水をどう分け合うのか。分かち合いの仕組みに知恵を絞ることこそ、行政が汗をかくべき仕事です。

目的(1) 流水の正常な機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）。

「木曽成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保する」とありますが、木曽成戸地点で 40 m³/秒の流量を確保しなければならない科学的根拠は全くありません。平成6年渇水の際、確かに木曽川下流部でヤマトシジミの斃死は見られました。しかし、その後、ヤマトシジミの生息状態は自然に回復しています。国会での質問主意書への答弁書でも「深刻な環境被害を窺わせる資料は存在していない」とあります。

木曽川の生き物のために 40 m³/秒の流量を確保すべき」というのは誤り、もっといえバウソです。

「長良川のアユ・ウグイ・カワヨシノボリの産卵のために水深 30 cm を確保する」というのにも科学的根拠はありません。むしろ世界農業遺産「清流長良川の鮎」にダメージを与える懸念のほうが大きいのです。

河川環境保全どころか環境破壊になってしまうのではないかと。先日の学識者からの意見表明でも、複数河川を結ぶことで、カワヒバリガイのような侵略的外来種を拡散・繁殖させてしまう危険性が指摘されていました。

目的(1)には、全く合理性がありません。

導水路事業の目的(1) (2)ともに不合理で、不要なものです。不合理で不要なものの代替案を検討するのは、無意味、ナンセンスです。

検討報告書(素案)の 100 ページほども占める代替案の検討は、滑稽な茶番でしかありません。

「検討の場」が設置された 2010 年に、愛知・名古屋で、生物多様性 COP10 が開催され、20 の愛知目標が採択されました。愛知目標 3 と真剣に向き合えば、“遅くとも 2020 年までに”この事業を進めることの可否が、極めて厳しく検討されなければならなかったはずです。

しかし、この「検討報告書(素案)」には、愛知目標も、生物多様性国家戦略も、真面目に検討された形跡がありません。国際的な公約であり、国家戦略なのです。「あれは環境省の所管だから国交省は関係ない」という話ではありません。この「検討の場」、「検討報告書(素案)」は、その面からも落第です。

最近、リニア新幹線の工事で近辺の地下水位が下がったという事例がいくつも報告されています。地下の長いトンネルを通過してダムの水を引くことへの弊害、環境への悪影響の懸念は深まるばかりです。

効用、言ってみれば「御利益」はなく、不安と懸念ばかりの導水路事業、それも事業費が 2.55 倍にもなった・・・この事業は継続すべきではなく、中止とするしかありません。

以上です。